



ちばの学童保育

2012年1月15日発行89号

本号の紙面	
千葉県指導員学校報告	1頁
学童保育情勢／ほいく誌紹介	2頁
四街道市の指導員会	3頁
県研究集会案内／編集会議報告	4頁

発行者 千葉県学童保育連絡協議会 船橋市本町3-4-3 千葉保育センター内
 TEL047-424-8102 FAX047-424-8108 e-mail chibagakudo@nifty.com

第31回 千葉県学童保育指導員学校

2011年12月18日(日)幕張セミナーハウスにて第31回千葉県学童保育指導員学校が開催され、368名の参加がありました。

午前中は基調報告の後、全体会議「“学童保育とは何か”を問われ続けている30年」(船橋市指導員：小松崎真一氏)がありました。

指導員として30年。若くして亡くなった子どもの学童保育時代を、悩みを抱える父と保護者達で見守る学童保育に携わった経験がありました。人がつながり合う事の大切さが強く心に残ります。そして指導員の子どもに対する価値観の違いを理解し、また自分を支える家族に感謝する姿勢は、小松崎氏の人柄を感じました。



午後は基礎講座をはじめ、実践講座、専門講座の10分科会にわかれ、学習だけでなく交流も行いました。



第6講座「自分探しの旅」ゲーム 頭金多絵氏の遊びの講座です。背中についている紙に動物の名前が書いてあります。これは誰かに書いて貼ってもらいます。本人はわからないので、他の人に私は飛べますか?と言うように「はい」か「いいえ」で答えられる質問が出来ます。さあ、自分が誰だかわかるかな?

～ふくしまの子どもたちに本を届けよう!!～

本 ダンボール 44箱 カンパ 62,528円 集まりました!

ご協力ありがとうございました!

当日は、皆様の温かいご支援によりたくさんの本が集まりました。千葉県連では、集まった本をその場でジャンルごとに分別し、午後より災害ボランティア活動団体NRB(習志野レスキューサポート バイク)の協力により、トラックにていわき市久ノ浜第一小学校久ノ浜学童クラブにある福島県学童保育連絡協議会へ届けました。現地では、自転車をかついた「人カクリスマスイルミネーション」の点灯式真っ最中。いわき市連協事務局長の鈴木氏は、予想以上の本の数とカン



パ金に感謝し涙ぐんで受け取って下さいました。今後も、支援を続けたいと考えています。

学童保育をめぐる最近の動き



1. 11月24日「子ども・子育て新システム」基本制度ワーキングチームでの検討内容

2011年11月24日に開催された会議では、7月29日の「中間とりまとめ」を受けて、①「費用負担の在り方」②「子ども・子育て包括交付金」③「こども園の給付等」などが検討されました。しかし、対象児童や市町村の責務、国の一律の基準などは、児童福祉法改正や関連法規にかかわる事柄とされており、検討されていません。また、12月末までに最終報告をまとめるとしていますが、現在のところ示されていません。

2. 「放課後子ども教室」(文部科学省)は「教育支援活動」のメニューのなかで取り組んでも良い活動の一つに(2011年度予算)

2007年度から「総合的な放課後対策」として文科省と厚労省が連携して推進してきた「放課後子どもプラン」は「放課後子ども教室推進事業」(文科省所管)と「放課後児童クラブ(学童保育)」(厚労省所管)の二つの事業を「一体的あるいは連携」して推進するものでした。

しかし、「放課後子ども教室推進事業」においては、実施箇所数は増えていても、目標の半分に止まっているため、文部科学省は位置づけを変更せざるを得ず、2009年には「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」のメニューの一つとなり、単独の予算額が示されなくなりました。さらに、2011年度予算では同事業の新メニュー「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」のなかで「各地域の実情に応じて」取り組んでも良い活動の一つとなりました。

県内でも都市部を中心に展開され、なかには「学童保育」と「連携」し、学童保育の生活や指導員の職務に組み込まれていたりして運営されているところもありますが、今後は市町村の判断だけで事業から撤退することも考えられます。その場合には「学童保育の子どもたちの放課後の生活や指導員の仕事にも大きな変化」をもたらすことが予想されますので、学童保育の保育内容の見直しながら、子どもたちの生活を確立することが求められます。

日本の学童ほいく

日本で唯一の学童保育に関する専門誌です。月刊で発行。1冊330円(送料76円)でお届けします。



1月号表紙

学童保育に関するありとあらゆる情報が満載。全国で4万人の人が購読しています。

1月号特集「続・明日につながる記録」です。皆さんにもぜひ読んでほしい1冊になっています。

- 学童保育の仕事を考えるうえで、「日々の記録」の役割の重要性は決して避けることはできません。指導員の体験と、関わる保護者の気持ち、また「なぜ必要なのか」を学術的に書かれている記事も掲載されています。指導員だけでなく、保護者も是非読んでみてください。



四街道市学童保育指導員会が誕生しました

四街道市学童保育指導員会会長 阿部 妙子

四街道市学童保育は平成 23 年 4 月より市、社協運営となりました。

父母の会の運営から指導員も自立する時期と考え、指導員会を立ち上げることとなり、本年度一年目をスタートさせました。

発足の趣旨としては、自覚と責任を持ち、共に学びあい、スキルアップする場として活動する事を一番の目的として、全指導員が指導員会に加入する事としています。

現在 65 名の指導員が実技部、実践部、防災防犯部、指導員部の 4 部門の専門部に加入し、それぞれ学びあい、日々の保育に生かしたいと頑張っています。指導員部では、全指導員にアンケートを取り、指導員の願い、要望などの実態を把握すべく、活動しています。

各ルールの指導員間の横のつながりも出来、情報を交換しながら、親睦も深めています。又、父母の会と共に話し合う場として、連絡会を作りました。今まで父母の会と共にめざして来たものを継続できるよう、新たな市、社協の運営方針を実行しながら、これからの学童保育のあり方を、連絡会を通して父母の会と話し合っています。

今後も、市、社協、父母の会、指導員会が力をあわせて、子ども達のために、より良い保育内容となるよう、話し合っていけたらと考えています。



第35回 千葉県学童保育研究集会

2012 年 2 月 26 日(日) 市川市勤労福祉センター本館

午前 10 : 00 ~ 午後 15 : 30 (受付 9 : 30)

各地域から指導員と保護者の実行委員が集まり、第 1 回実行委員会(11 月 20 日)を行いました。12 月 11 日(日)第 2 回実行委員会では、会場となる市川市勤労福祉センター本館にて、会場確認のほか、具体的な講座内容などを話し合いました。今回は、特に保護者を意識した研究集会をつくるため、保護者からも積極的な意見が多くだされています。子どもと親と一緒に楽しめる講座も検討しています。お友達を誘い参加をしてみましよう。詳細は、チラシを確認ください。

行ってきました

月刊誌「日本の学童ほいく」 編集会議

みなさん!「日本の学童ほいく」って、どのようにしてつくりだされているか知っていましたか?「日本の学童ほいく」には「編集・発行 全国学童保育連絡協議会」と記載があります。事務局の担当者がつくっているのでしょうか...確かに、担当者はいます。しかし、全国連のなかの色々な会議を経て作成されています。その中でも、「編集委員」として全国の地域から保護者と指導員を選定し、「特集」の具体化を行っている会議があります。これが「編集会議」です。選ばれた編集委員は 1 泊 2 日間 3 回(11 月・2 月・5 月)の「編集会議」と 1 日 1 回(7 月)の「特集企画会議」に参加することになります。..ということで、2011 年 11 月 19・20 日の会議に参加してきました!今回は委員のはじめの顔合わせもあり、自己紹介がありました。北海道の保護者から福岡の指導員まで 10 名の保護者と 13 名の指導員他 1 名、全国連職員 6 名他 1 名の合計 31 名でした。指導員も指導員歴 3 年から 27 年のベテランまで、また子育て現役の保護者から OB まで、幅広い人達が集まっています。楽しかった自己紹介のあとは、編集委員の仕事の説明があり、2012 年 4 月号特集の検討がはじまりました。2 日目は朝から 5 月号、6 月号、7 月号の検討が 1 日かけて行われ、皆それぞれの立場で活発に意見がだされていました。結局、指導員と保護者が一緒に考えて「日本の学童ほいく」はつくりだされたのです!だから、読み続けることで「すべて」ではないけれど、自分の心に届くところが必ずあったのだと納得したのはじめての会議でした。